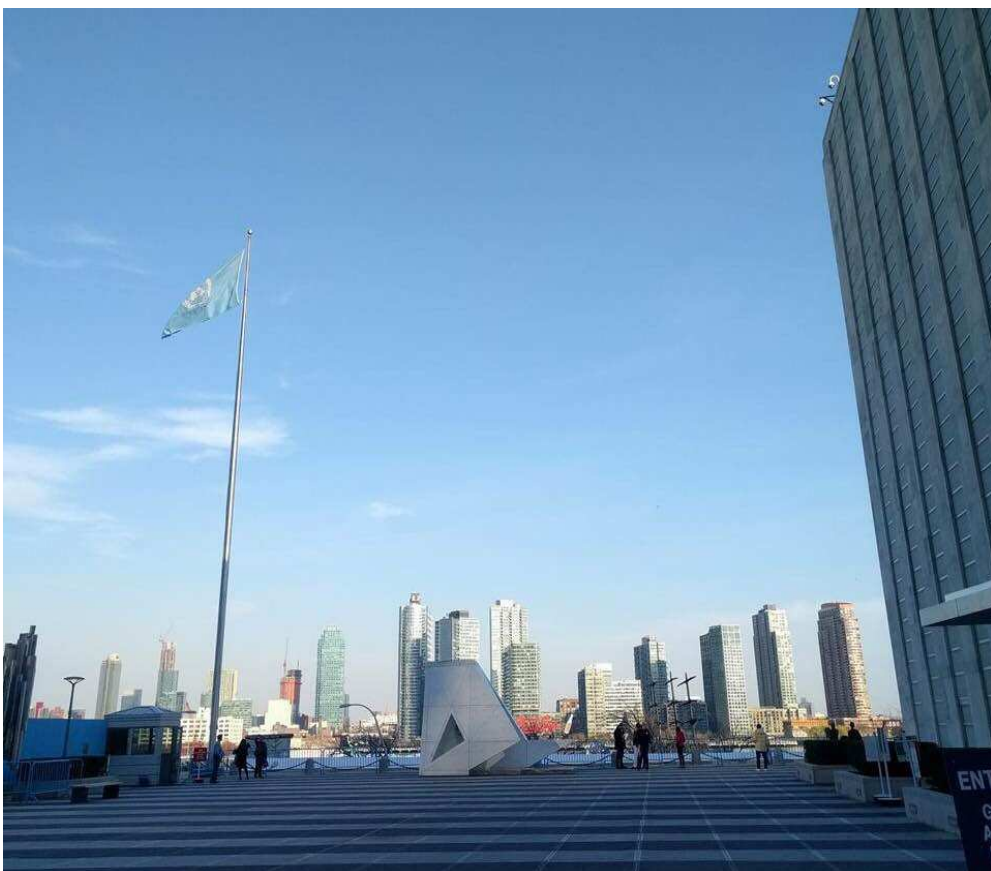


BPW UN-CSW インターン派遣事業

第 60 回国連女性の地位委員会 インターン報告書



2016年3月14日～3月24日

特定非営利活動法人

日本BPW連合会

第13回インターン派遣事業報告書 目次

ご挨拶 日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ	1
第60回国連女性の地位委員会について	2
第13回国連 CSW60 インターン派遣事業報告	4
第13回 CSW インターン報告書 8人の娘たちに出会って	6
サイドイベント チラシ・プログラム	7

インターンによる報告書

1. はじめに・インターン名簿	9
2. スケジュール概要	10
3. 個人報告	11
・ 石川 綾佳	12
・ 須永 彩佳	14
・ M.T	16
・ 中尾 陽美	18
・ 野角 采加	20
・ A.H	22
・ 村嶋 祐佳	24
・ 山本 朱音	26
4. CSW についての説明	28
5. 参加イベント紹介	31
一覧 (サイドイベント・パラレルイベント)	32
印象に残ったイベントの報告	42
6. 特別イベントの紹介.....	50
・ Consultation Day	
・ アントワネット氏との交流	
・ BPW dinner	
・ Reception Part	
・ 政府代表ブリーフィング	
・ 米日財団昼食会	
・ BPW 内での交流	
7. 事前準備・生活情報アドバイス	56

2017年 UN-CSW61 派遣インターン募集要項	表3
----------------------------------	----

ご 挨拶

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会
理事長 名取 はにわ

日本 BPW (Business & Professional Women の略) 連合会は、若い女性を毎年、国連女性の地位委員会 (CSW) へ派遣しており、今年で 13 年目を迎えた。

今年は、多くの応募があり、厳選した結果、過去最高の 8 人のインターンを派遣した。私も 8 日間、CSW 等に参加した。

CSW は、今年は例年より 1 日短い 9 日間、国連本部で開催されたが、毎日朝 NGO 向けブリーフィングが行われ、多くのサイド・イベント (政府+NGO)、更に土日も含めて数百の平行・イベントが、国連本部とその周辺で開催された。

この中には、平松昌子日本政府団表団顧問 (BPW 元会長) が企画を担当したサイド・イベントや BPW International の複数イベントも含まれていた。

インターンはこれらイベントに参加した他、BPWI のアントワネット元会長の招きによるお茶会や BPWI のパーティー、さらに今年初めての試みである米日財団での、経済人等との意見交換会で積極的発言を求められ、見事に応えてくれた。

期間中、インターンの皆さんは、平松企画委員長、花崎国際委員長、林東京クラブ会長、他 BPW メンバーと多くの会合を重ねた。私自身、何度も直接インターンの皆さんと話をする機会があり、とても楽しかった。

もし、インターンの皆さんが、なにがしか BPW 会員から得ることがあったとしたら、この事業を続けてきた甲斐がある。

さらに今年のインターン有志は帰国後、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの大企業の幹部と意見交換を行ったほか、WEPs に署名している株式会社 IBJ の石坂茂社長他との意見交換を行うなど、インターンとしての成果を活発に発信した。

彼女たちの若い感性が何を捉えたか、是非一読していただきたい。

また、今年のインターン皆さんの背中を押してくれた 2015 年インターン大石真子さんはじめ先輩インターンに深く感謝する。

インターン皆様方の更なる活躍を心から期待する。

第 60 回国連女性の地位委員会について

2030 年までに男女平等の完全な実現に向けて

日本 BPW 連合会 企画委員長 平松昌子
第 60 回国連女性の地位委員会政府代表団顧問

毎年 3 月上旬になると NY の国連本部周辺は元気の良い女性たちが世界中から集まってくる。その NY を体験しませんかと、若い女性たちに呼びかけ、毎年何人かの応募者とご一緒してきた。今年もその企画が実施され、8 名が NY に出掛けた。それぞれが得たものはそれぞれで報告書に語られているだろう。

今年の第 60 回女性の地位委員会は、「2030 年までにジェンダー平等を実現するための、枠組みを立てること」が重要なテーマとなっていました。これは、昨年秋の国連総会で「貧困の撲滅やジェンダー平等など 17 項目の開発を 2030 年までに達成するための枠組み」が採択されたことによるものだ。ジェンダー平等は総ての女性の達成目標でしたが、「2030 年という時期」が明示されたため 2030 年への初年度として、CSW が「どのような枠組みを打ち出すか、最終日に採択される合意結論にどのように盛り込まれるか特に注目されていた。CSW それ自体はほぼ平年どおりの日程で、大臣クラスの各国代表がそれぞれ『わが国の女性政策は・・・』と演説をし、もっと発言したい各国代表のために代表が自席から手を挙げて発言できる『ラウンドテーブル・ディスカッション』という時間が作られ、特化したテーマを議論する『ボランタリー・プレゼンテーション』という枠も今年は新設された。日本からは、武藤外務副大臣が『代表演説』を日本語で行い、『ボランタリー・プレゼンテーションで』は、橋本ヒロ子代表と組んで女性に対する暴力について日本の取り組みを発表した。他にも専門家によるパネルなどもあったので、傍聴された方もあると思う。

ところで、CSW は投票権を持つ参加国は 45 カ国で地域別に議席が割り当てられ、それぞれの地域別に選挙で選ばれる。日本の任期は 2017 年まで。その後の再選を望んでいるが。

CSW の審議をスムーズにするかどうかは議長団の手腕によるとも言われるが、今回

は議長がブラジルの A. Patriota 氏、ほかに 4 名いる副議長の一人が日本の齊藤公使だった。

CSW の議論で最も注目される合意結論についてだが、CSW 開始前に討議の原案（ドラフト）が各国政府に送られると同時に、ネットで公表される。各国はこのドラフトに対して、いろいろ意見や注文をネットで事務局に送り、CSW 初日には、すでに各国の意見を盛り込んだものが配布され、各国はそれを元に、自国の主張をどう入れるか検討を進めことになる。合意結論についての議論が始まるのは、常に第 1 週の終わりごろで、討議は非公開となっている。表現の一字、一句の意味など、国によっては政策上どうしてもこだわる表現がある。その攻防が最終日まで続くのが通常で、今回も合意が成立したのは最終日、日付が変わる直前だった。そして 4 ページだった原案は 14 ページに膨れ上がっていた。

【合意点の目玉】

女性のエンパワーメントを 2030 年までの持続可能な行動目標にどう取りこむか。特に、経済的エンパワーメントとしてスペースを割り、相続や有志など、各方面での女性に対する差別の排除など、取り組むべき課題が列挙されている。



第13回国連CSW60 インターン派遣事業報告

日本BPW連合会 国際委員長 花崎正子

国連女性の地位委員会へのインターン派遣は、平松企画委員長（元会長）の提案によりはじめられ、今年で13回目である。回を重ねるごとに若者の関心は高まり、今回は以下の8名の派遣となった。CSW60のイベント参加を中心に、これまでも進めてきたBPW Internationalメンバーとの交流や、先輩たちとの会話・インターン相互の情報交換に加え、ニューヨーク滞在中における、現地の企業人との懇談や帰国後の企業関係者へ紹介する場が設けられた。2030年の完全な男女平等実現に向けての展開としてである。

石川 綾佳	慶応義塾大学法学部政治学科4年
須永 彩佳	札幌医科大学医学部医学科2年
M.T.	慶応義塾大学法学部政治学科4年・オスロ大学 Humanities 交換留学中
中尾 陽美	山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科2年
野角 采加	中央大学法学部国際企業関係法学科3年
A.T.	東京大学法学部4年
村嶋 裕佳	福岡女子大学国際文理学部国際教養学科欧米言語文化コース3年
山本 朱音	上智大学法学部国際関係法学科3年・テネシー工科大学留学中

(50音順、一部本人の希望によりイニシャル表記)

【インターンの選考】

インターンの応募締切は、今回は2015年10月中旬とした。募集はBPW連合会HPや会員・大学・昨年のインターンOGなどを含め、可能な限り対象拡大を試みた。提出された英語・日本語論文を、選考委員会で、英語力、目的意識の明確さ、論文構成力、未来志向性などを総合的に慎重に審査。本事業の主な目的は国際問題・女性問題・国連に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援することであり、国連本部とその周辺で行われる様々な行事への参加を期待している。

「2016年派遣インターン募集要項」（抜粋）は次の通りであった。

期 間 例年通り3月中旬に2週間の日程で開催される予定。決まり次第日本BPW連合会のホームページ <http://www.bpw-japan.jp> にアップ致します。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ大学生、または30歳以下の女性、若干名。帰国後、報告書を日本BPW連合会に提出してもらう。また、ヤングBPWのメンバーとしてBPWの活動に参加していただく。

費用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。海外旅行保険も、自己負担になりますが、必ずご加入ください。登録料は原則各人負担（申し込みも各人で）。但し、直接BPWに関わるものは一部をBPWが負担。

応募方法 E-mailにて、応募必要事項記載の上、小論文（応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英語で述べて下さい。「日本語で1000字前後、英語で500words以内」を添付の上送信。

【インターンとのコミュニケーション】

短期間での本事業では高密度のコミュニケーションを求められる。NYへの出発までインターンの居住地が海外を含む広域に及んでいるため、メール、Facebook、MLなどによって、CSW関係やNYでの生活などの情報共有が図られた。12月に入るとCSW関係情報が入り始め、平松企画委員長が具体的な発信を行う。そして、CSW参加者全員がNGOフォーラム説明会前日の3月12日までにNY入りを果たした。その日の夕方、事務局を設置した「Residence Inn」のレストランにインターン・BPW関係者全員が初会合し、ブリーフィングを実施。その後のNYでのインターンとのコミュニケーションは林会長を中心に高密度に展開された。

【インターンのNY及び帰国後の活動】

インターンは、CSW活動への独自の参加プログラムとインターン相互の意見交換の時を持ちながら、次のようなイベントに出席し、参加者に強いインパクトを与え、多大な成果をあげた。「BPW主催イベント：Fulcher Dinner」「日本政府国連代表部による日本のNGO参加者へのブリーフィング」「Antoinette Rüegg元BPW International会長との懇談会」「米日財団での財界人等との意見交換会」など。

帰国後は、インターン有志の「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入している大企業の幹部と意見交換」「WEPsに署名している株式会社IBJの石坂茂社長他との意見交換」「地域市民集会での報告」「大学行事での報告」「財団・団体での報告」「地域BPW活動への参加」など、すでに未来に向けての活動が具体化されてきている。

今後の益々の活躍が期待される場所である。

第13回 CSW インターン報告書「8人の娘たちに出会って」

東京クラブ会長 林智意

国連女性の地位委員会（CSW）に初めて参加することとなった。2週間の会期中、私の役割はインターンのサポート役であった。2週間で彼女たち8名にどれだけプラスになる経験を作っておあげられるのか？とても大きな使命をいただいたことに改めて身が引き締まる思いを抱いた。

大切なことは‘与えてあげる’ではなく、‘そっと背中を押してあげる’ことだと考える。将来有望な若い子たちにはつい何でもやってあげよう、教えてあげようという気持ちが湧いてしまうのだが、与えられたものは身につかない。自ら勝ち取ったものは一生の宝となる。それをどうやって伝えるのか。私と彼女たちとの2週間の真剣勝負が始まったのである。

初日の自己紹介で、私は一方的に母親宣言をした。私にとってこの宣言は役割に入るスイッチであった。初っ端からモーニングブリーフィングに来ないインターンが多くいて、カミナリを落とすこととなった。彼女たちにとって苦いスタートとなったことだろう。しかし、2週間を中身の濃い経験にするためには8名にもスイッチが必要なのである。適度な緊張感は集中力を高め、維持するのにとても有効となる。それからの彼女たちは素晴らしい活躍ぶりであった。知識欲、探究心、情熱、社交性と誰もが自分の力を発揮していたと思う。そこで私は「組織」「チーム」を2週間で身につけてもらおうと考え、一人ひとりの個性に合わせて対応した。今の自分という器をもっと大きくしてもらいたいのだ。当然厳しいことも言わせてもらった。たとえば「公私の割合は8:2」と教えたり、「毎日めまぐるしく変更される国際会議に対応せよ」と伝えたり、「とにかく笑顔で自分を売り込め！」など、まあ背中を押して放しであった。でもそれらすべてを彼女たちは呑み込んでくれた、その素直さが母としては可愛くてしょうがない。

2週間の濃厚な体験がどのように彼女たちを成長させているのか、今後の活動に目が離せない。



CSW60 Side Event

PLEASE PASS UN GATE
BEFORE 6:00P.M.

March 18th (Fri) 18:30~19:45

Venue : CR 11, GA Bldg. UN

Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy

We hereby launch a campaign to eliminate economic gender gaps in accordance particularly with SDGs 5 (gender equality), through discussion by women leaders including the Chair of CEDAW, the President of BPW Germany, etc.

These leaders have worked for women confronted by wage gaps and opportunity gaps or social resources and have developed strategies to eliminate those gaps.

Speakers □ Provisional as for the order of speaking □

Yoko Hayashi

Chairperson, UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women (CEDAW)

Henrike von Platen

President, National Federation of Business & Professional Women (BPW), Germany

Miho Hirata

Secretary General, The National Conference of the Association of Small Business Entrepreneurs (NASE)

Kira Appel

Chief Adviser and Deputy Head of Department in the Danish Ministry for Children, Gender and Social Affairs

Yumiko Tanaka

Senior Advisor for Gender and Development, Japan International Cooperation Agency (JICA)

Coordinator

Reiko Aoki

Chairperson, The National Women's Committee of the United Nations NGOs

Co-sponsored by Permanent Mission of Japan to the United Nations

The National Women's Committee of the United Nations NGOs
The International Women's Year Liaison Group
JAWW (Japan Women's Watch)

Contact : 3ngosjpevent@gmail.com

Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy

Date&Time : March 18th(Fri) 18:30~19:45 Venue : CR 11, GA Bldg. UN

Co-sponsored by Permanent Mission of Japan to the United Nations / The National Women's Committee of the United Nations NGOs / The International Women's Year Liaison Group / JAWW (Japan Women's Watch)

- ◆ **Coordinator : Reiko AOKI** : Chairperson, The National Women's Committee of the United Nations NGOs
- ◆ **Opening Remarks : H.E. Ambassador, Hiroshi MINAMI**
: **Yukiko ODA**: Convener, Japan Women's Watch

Speakers

(1)Yoko Hayashi: Chairperson, UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women (CEDAW)

“CEDAW as a tool for economic empowerment of women”

Women's economic empowerment is a key for achieving gender equality and women's empowerment.

(2)Henrike von Platen: President, National Federation of Business & Professional Women (BPW), Germany

“Why Quotas? Equal Pay and XXY are the Answer”

The German Quota Law, the Equal Pay Day Campaign and planes law and planned law XXY

(3)Miho Hirata: Secretary General, The National Conference of the Association of Small Business Entrepreneurs (NASE)

“Emergence of Women in Business & SME Programs that Support Women in Business”

Role of SME in the Japanese economy, SME's effort for Women's Economic Activities.

NASE's support for management of SMEs that defend human rights.

(4)Kira Appel: Chief Adviser and Deputy Head of Department in the Danish Ministry for Children, Gender and Social Affairs

“Labour market participation - a necessity for women's economic empowerment”.

Including an educational focus, a labour market focus as well as a welfare focus.

(5)Yumiko Tanaka: Senior Advisor for Gender and Development, Japan International Cooperation Agency (JICA)

“Women's Economic Empowerment: JICA's Challenges for Development Assistance”

JICA, as implementing organization for Japan's Official Development Assistance, challenges to promote women's economic empowerment in pursuit for social justice and sustainable development in Asia, Africa, Latin America and Middle Eastern countries.

◆ **Questions, Answers, and Comments:**

The presented slides will be uploaded on website (<http://www.iwylg-jp.com/member/671>). If you have any comments or questions, please contact to 3ngosipevent@gmail.com

第 13 回 CSW 派遣インターン報告書

この度は、第 60 回女性の地位委員会へのインターンに選出していただき、誠にありがとうございました。BPW の皆様のお力添えのお陰で、我々 8 名は、各国の代表や諸団体が一堂に会する国連という舞台上、非常に貴重な経験をさせていただきました。また、ground pass 取得や各イベントの企画といった事前準備、現地での引率や温かいご指導、帰国後の会合の設定など、インターン生のためにご尽力いただきましたこと、一同心より感謝申し上げます。以下、簡潔ではございますが、報告書とさせていただきます。我々の心に響いた感動や学びを、少しでも多くの方々にお伝えすることができましたら幸いです。

今後、インターン 8 名は、それぞれの道に邁進しつつ、次世代のインターンや将来の BPW、ひいては日本の未来、世界の未来の為に努めていく所存です。どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

UN CSW60 インターン一同

インターン 8 名の氏名及び参加当時の所属

- 石川綾佳 : 慶應義塾大学法学部 4 年
- 須永彩佳 : 札幌医科大学医学部 2 年
- M. T : 慶應義塾大学法学部 4 年
- 中尾陽美 : 山梨県立大学国際政策学部 2 年
- 野角采加 : 中央大学法学部 3 年
- A. T : 東京大学法学部 4 年
- 村嶋祐佳 : 福岡女子大学国際文理学部 3 年
- 山本朱音 : 上智大学法学部 3 年



スケジュール概要 ～現地到着から帰国まで～

3月						
月	火	水	木	金	土	日
					12 NY 到着 メンバー 顔合わせ	13 Consultation Day Antoinette 氏との交流
14 BPW Dinner	15 MB NGO Reception Party	16 MB 日本政府 代表部 BF	17 MB 米日財団 昼食会	18 MB 日本主催 Side Event	19	20
21 MB	22 MB	23 MB 日本政府 代表部 BF	24	25 NY 発	26 日本到着	

* MB=morning briefing : 平日 8 時 30 分～9 時 30 分

* 日中は、各自サイドイベント・パラレイイベントに参加

個人報告

インターン生 8 名による各々の参加目的・背景、インターンの感想、
2030 の社会の理想像、次のインターン生へのメッセージ。



参加目的・背景

私がこの BPW の活動を知ったきっかけは、ネット上にて偶然本インターンの募集を発見したことでした。日頃より日本におけるジェンダー問題に関心を抱いており、ジェンダー学や福祉国家論をスウェーデンで学んだ経験もあったことから、参加を決意しました。

感想

CSW60 に参加した日々は、刺激と学びの連続でした。ここでは様々な体験の中でも、大きく三点挙げさせていただきます。

一点目に、世界における国際連合の役割の重要性を目の当たりにしたことを挙げたいと思います。日本では中々国際連合の実態を理解する機会は少なく、手の届かないようなもの、というイメージがありました。しかしながら今回のインターンを通じて、国際連合が国と国の架け橋となり、NGO を始めとする各地域のローカルと政府を繋ぐ議論の場を提供し、実際に政府間・また NGO との合意形成や連携を促進するという立場にあるという事実を確認致しました。この協力体制無しには、世界の共通課題解決の為にスタート地点にも立つことができないのだと、実感しました。

二点目に、世界における女性活動家の熱量について記します。日本ではフェミニストという言葉さえ忌み嫌われるもしくは敬遠されるような風潮がありますが、改めてアメリカを筆頭とする諸外国の女性たちの、理不尽に対する憤り、それらに対峙する解決策の実行力、その熱量には想像以上に圧倒されました。

自分たちが感じている社会の矛盾や不公平は事実であり、これに立ち向かわなければなりません。勇気を出して実行への一歩を踏み出す、そんな女性を支える人々がいるから一緒に戦っていくのだという、参加者達の強いネットワークに感銘を受けると共に強く共感したのを覚えています。

三点目に、BPW International の可能性についてです。現地では、世界のメンバーとの交流の時間を設けて頂いたことで、各国のメンバーの活動や、各地で活躍する若年層メンバーの姿実際に見聞きすることができました。その中で、今後、日本国内の活動においても若年層メンバーが益々活動に参画・活動することのできるよう体制作りが必要であると考えました。日本の人々にジェンダー平等の真の実現や世界の共通課題の解決必要性を伝えるにあたり、より多く若者がこのような知識を得、全ての世代の為に活動を展開していくことが非常に肝要であると考えました。

2030年の社会の理想像

私が実現したい社会は、日本の女性の経済的自立が促進された社会です。具体的には、労働市場が柔軟化・流動化した状態であり、多様な雇用形態、働き方が認められた社会。そして、それを支える政策が実行されており、女性が社会参画・政治参画をする場面において、ライフステージ上何の支障もなく働き方・生き方を、自らの意思で決定できる社会。さらに、非正規雇用と正規雇用の賃金格差や待遇等、長時間労働等の問題が改善された社会の実現を望みます。

次のインターンへのメッセージ

CSWに参加することで広がるネットワークは、本当に素晴らしいものです。私は国内外の多くの識者や活動家に出会い、日本に帰国後もそのネットワークを活用しながら日々ジェンダー課題に向き合っています。参加を希望する方の多くは大学生もしくは大学院生かと思います。費用もかかりますが、ためらうことなく挑戦して頂きたい機会です。私の場合大学4年時の卒業直前のタイミングで参加した為、他のインターン生とは違って一週間のみの滞在をさせて頂きました。様々な都合等あると思いますが、国連に興味のある方やNGO活動・ジェンダー問題に興味のある方、どんな方にとっても学びのある空間であると約束します！ぜひ挑戦してみてください。



参加目的・背景

国境なき医師団などに憧れ、途上国支援をしたくて医学部に入学したものの、学校で勉強できるのは、医学に関する知識だけであることを痛感していました。自分で何か勉強する機会を見つけなければと思い、応募しました。

感想

BPW インターンとしてニューヨークで2週間過ごした日々は本当に大切なものになりました。CSW では国家間レベルでの協議、国レベルでのイベント、そしてNGO レベルでの活動を一気に見ることのできる、またとない機会となりました。一つ一つやり方や根ざしているものは違いますが、そこには「女性というだけで不当な扱いを受けないために」という大きな目標に向かっていく、ものすごいパワーを感じました。とくにNGO のイベントでは市民目線で本当に必要なものは何かというものを見つけ、外の世界に働きかけて行く姿勢が目眩しく映りました。若い女性がイベントを行っている団体も多くあり、同じような年の人たちが声を上げているのを頼もしく思うとともに自分も何かやらなくてはならないと感じました。また、今回のCSW 60には男性も多く参加しており、ジェンダー問題も女性のみが取り組みものではなく、男女両者にとっての問題となっているのだと感じました。

私は、今回主に女性に対する暴力やエイズ、人身売買を問題として扱うイベントに参加しました。そこで感じたのは、当事者が声を上げることの大切さです。確かに、当事者が声を上げるというのはとても難しいことだと思います。自分のコミュニティの中での立場が危うくなるかもしれないし、自分の嫌なことを外にさらけ出すというのはとても勇気がいることだと思います。しかし当事者が声を上げることでその発言の説得力は増し、本当に今起っていることなのだと周りを理解させることができます。パラレルイベントのように市民が自分の目線に立って意見を発表するというのがアクションの最初の一步であり、一番重要なポイントであるように感じました。自分の感じた理不尽さ、つらい悲しい思いを他者へ伝える。それが、大切なのではないかと思います。その中でも、特に私が考えたのは、地域の格差についてです。国際的なアジアやアメリカという地理、その国の違い、国の中の地域の違い…様々な違いがありますが、自分の所属するコミュニティに対して、何らかのアクションを起こして行くというのがとても重要であると感じました。

2030年の社会の理想像

2030年、私は36歳になります。順当に行けば、医師として10年くらいのキャリアがついている予定です。そのとき、社会がどうなっていてほしいかという、女性と男性という壁がなくなっていて欲しいと思います。男女という枠に問われず、自分らしく生きることのできる世の中であることです。ジェンダー問題を考えるときにトランスの方やセックスオリエンテーションについての問題もこれからの時代はとても重要な意味を持ってくると思います。なので、女性に対する差別、偏見はもとより、男性に対する逆差別、偏見もなくなり本当の意味でのフェミニストが増えることを私は期待していますし、そうなるように自らも行動しなければならないと強く感じています。

次のインターンへのメッセージ

CSW60は、ジェンダー問題とそれをとりまく様々な問題につながっているイベントだと感じました。様々な視点からジェンダー問題をとらえることもできるし、ジェンダーの視点から様々な問題を捉えることもできるまたとない機会になると思います。自分の得意分野を深めるとともに、今まで持ったことのなかった考え方に触れて新しい視点を持つことができると思います。



参加目的・背景

かねてよりジェンダーに関心を持ち、大学でのゼミ活動、学外での講演会やイベントへの参加、グラミン銀行訪問、国際 NGO 日本支部でのインターン、北欧への留学などを通して国内外で問題意識を深めてまいりました。将来はジェンダー諸問題の解決に貢献したいと考えており、世界でどのようなジェンダー問題が議論されているのか、国際機関・各国政府・NGO がどのように問題と向き合っているのかを知りたいと思い応募致しました。

感想

初めに、CSW60 インターンという貴重な学びの機会をいただきましたこと、BPW 日本の皆様に心より御礼申し上げます。学びと出会いに溢れた大変充実した 2 週間を過ごすことができました。

本感想においては、CSW で参加した数々のイベントや、CSW を通じて興味を持った「サイバー空間における女性差別・男女格差」のイベント等への出席を通じて考えるに至った、国際機関・各国政府・NGO の今後の在り方について、自分なりの見解を述べたいと思います。

はじめに、俊敏な対応が求められる現代でも政府や国際機関は迅速に動ける組織でないことにもどかしさを感じました。激動の社会の中では従来の問題に加えて新たな問題も浮上しており、例えば 1995 年の北京会議時には認識されていなかったサイバー空間上の問題はこの 20 年間で急増し、十分な対応がなされていないものが数多くあります(女性の政治的発言の取り締まり、リベンジ・ポルノ、情報取得格差等)。現代社会は従来の問題に対しても新たな問題に対しても十分に対応できず、問題は膨らむばかりとなっていないでしょうか。速やかに問題を解決していくためにも、政府や国際機関に対し、NGO や国際世論が引き続き強くプレッシャーを与えていく必要があると思います。

また NGO に関しては、プレッシャーを掛けるにとどまらず綿密な政策提言を行っていくべきだと思います。多くの団体が女性の直面する問題の事実を伝えるのみにとどまり、具体的な解決方法の提示が少ない印象を受けました。現在多くの団体が行っていた「女性が人権侵害を受けています。それを防ぐために政府は法律を作ってください」という形式のプレゼンテーションでは説得力に欠け、十分な圧力を掛けられていません。これは平松さんが日本政府代表部ブリーフィングの際にお話しされていたことでもあります。日本のサイド・イベントのようにデータや数値を効果的に用いて政策提言をすべきでしょう。NGO から寄せられた多様な政策案は国際機関、各国政府、NGO 等

の議論を推進していくのではないかと期待しています。

最後に、引率の方々とインターン同期、世界各国からの熱い思いを持った多くの方々との出会いは心からかけがえのないものと感じております。引率の方々のお人柄、人生経験どれをとっても尊敬できる方ばかりです。またインターン同期とはイベントについての意見を交わしたり、夜な夜な進路について相談しあったり、美味しいものを頬張りながら NY の街を観光したりと、大変楽しいひと時を持ってました。帰国後早速 CSW の経験を活かして新たに活動を始めたメンバーもあり、今後も互いに刺激し合える志高き友人を得られたことを大変光栄に思っています。世界のアクティビストたちの熱量に圧倒され、自分たちもその一員であるということにも大変誇りを持ちました。出会いに恵まれるとはこういうことか、と肌身を持って感じた2週間でありました。

多くの学びと出会いに恵まれた CSW。この経験を還元して将来の目標であるジェンダー諸問題の解決に貢献していきたいと思えます。

2030 年の社会の理想像

14 年後の 2030 年、社会はさらに発展し、それに応じて新たな問題が生まれているかもしれません。効果的な予防策・解決方法を速やかに実践できるような国際的なシステムが創造され、実施されている社会であれば嬉しいです。

次のインターンへのメッセージ

CSW 期間中の一瞬一瞬を楽しんでください！参加する前は予定の詳細がわからず、そもそも CSW で何が得られるのだろうか不安になることもあるかもしれませんが、期待以上の収穫が得られると思います。ジェンダーというトピックを深め、世界の諸問題に向き合う国連という場でどのような世界的な連携がなされているか見、そして、志を高く持つインターンという仲間と、それを支えてくださる大先輩の BPW の引率の方々、世界中のアクティビストと出会い、その他 CSW での全てのことはかけがえのない財産になることと思います。

CSW61 に参加される皆さんが私たちと同様に、またはそれ以上に豊かな出会いと経験に恵まれることを祈っています。



参加目的・背景

一番大きなきっかけは、同級生の西鍋早葵さんが一年生の時に参加していたことです。以前から国連にいつか行ってみたい、女性の会議に参加してみたいとぼんやりと思っていたことに、現実味が出て思い切って応募しました。小さいときからキュリー夫人、マザーテレサ、津田梅子が好きで、中学生の時から岡田育、ジェーンズー、雨宮まみなど女性ライターが描く女性問題に関心を持ち始めました。

感想

ずっと一人で女性問題に関する本を読み、考えるだけでしたが、はじめて生の会議に参加し、意見だけでなく雰囲気を知ることができてとても感動しました。本当に多くの人が関心を持っていることに勇気もらった気がしました。また、女性問題に対する「怒り」だけでは終わらず、なぜか、特にどうしたらよいかを冷静に話し合っていたことに、自分の至らなさを痛感しました。「怒り」も大切だけれど、解決のためにどうしたらよいかを政府任せにせず一人ひとり考えることの大切さを学びました。

また、これほど多くの会議、イベントで出会いを経験してわかったことがあります。問題解決は一人でできないこと、誠実であることの大切さです。問題解決には労力としての人手がいるという意味だけでなく、多くの人と話し合うことで素晴らしいアイデアが生まれ、それが解決につながるのではないかということです。一人のときには考えなかったことも、誰かの話を聞いていることで思い出したりつながったりする、それを毎日のように体験しました。また、自分が誠実であることで、誰かが私にアイデア、意見を言いやすくなり、協力してくれることも体感することができました。

どうしたらよいか考えること、誠実であること。私がこれからジェンダーに関して活動していく際だけでなく、今後人生を送るにあたって大切な教訓をこのインターンで得ることができました。

最後に引率者の皆様、インターン生には多大なる感謝を申し上げたいと思います。まことに、ありがとうございました。

2030年の社会の理想像

意思決定の場の女性の数が、全体の半数近くまで増え、また発言権がある社会になってほしいと思います。また35歳の私が、自分のやりたいことを、楽しく快適にできているとうれしいです。その当たり前の社会が実現できているように今後活動していきたいと思います。

次のインターンへメッセージ

インターン中はきっと毎日がわからないことの連続だと思います。だからどうか「わからない」ことを受け止め、周りの素晴らしいプロフェッショナル達に質問してほしいです。たくさんのプロフェッショナルに接して、皆さんのインターンはかならずや充実したものになると思います。健康に気を付けて！



中央大学法学部 3年 野角采加

参加目的・背景

幼少期をドイツで過ごし、大学では法学部国際企業関係法学科に所属。法制度、社会問題、国際協力が主に学んできた内容です。大学の奨学金を利用してドイツの労働システムに関するリサーチを行った際のテーマは「日本のワーク・ライフ・バランスの実現に必要なものは何か」。女性の働きやすい環境づくりは男女双方の問題であり、まず労働環境自体の改善が必要だと考えました。その後国際協力の学生団体、ボランティア、ミュンヘン大学法学部留学なども経験。

これらの経験を経て思ったことは、様々な社会問題は国連以外のアクターによる解決が可能であり、大きな可能性があるということです。NGOの役割の一つは現場の声を国連にレポートすることであり、また国連の示す行動指針を市民に届け、一つの目標に向かって最初は草の根活動でも実際に「変化」を起こせるアクションを起こすことです。国連、各国、企業、市民団体、学生団体やボランティアにはそれぞれの存在意義があり、それらはどれも繋がっています。お互いがお互いの活動や考えをシェアし、インタラクティブに活動できればより問題の解決スピードは上がるでしょう。私はこの繋がり強化や協力が必要だと思い、その現場を経験する為にBPW インターンに応募しました。

感想

印象に残っていることが2点。1点目は国連とNGOとの連携の強化です。CSWにおけるサイドイベントではNGOと国連が同じ目線で意見を交わす様子を伺うことができました。また、イベントでの質問タイムでは私の質問や意見を述べることができました。BPWの方々にお話を伺うと、少しずつ国連とNGOとの関係性は変わっていて、毎朝のモーニングブリーフィングの様子も変わりつつあり、連携はどんどん強化されているそうです。各種イベントでは問題が解決された理想状態やゴールの討議よりも、どうしたら実行できるのか、に重きが置かれていて、実行においては市民社会との連携が必須です。Agenda2030に向けて全体が一体となって動き出していると感じました。

2点目はBPW内での繋がりです。世界中のBPWが集う夕食会、BPWドイツのイベントへの参加等を通してBPW内の繋がりを知りました。世界中に頼れる先輩方がいることは、今後世界に変化を起こしていく私達にとっては心強いことです。今回のインターンに参加して以上の2点以外にも様々な連携の存在を知ったことで、今後どのように動いていくべきなのか考える材料や刺激を非常に受けました。

また最後になりますが、インターンでお世話になった皆様に心より御礼申し上げたいと思います。皆様との出会いは非常に貴重なものとなりました。今後どうぞよろしくお願ひします。

2030年の社会の理想像

大きな理想と小さな理想があります。大きな理想とは、貧困、保健、衛生環境、インフラ整備、人権保障、安全な居住といった MDGs に上がっていたような目標が達成され、世界中の人々の最低限の生活基盤が整えられていることです。「Planet5050」という男女が真に平等な状態の実現が理想として掲げられていますが、最低限の生活基盤が整わずに男女が納得いく世界は実現されないと私は考えています。”No one left behind”の実現が理想状態への第一歩。そしてその基盤の上で女性がどのように社会の中で制限されずに社会で活躍できるか考えることができることが理想です。

小さな理想とは、主に日本に焦点を当てた理想です。私は各々が自分で生き方を選択していく社会が理想だと思います。その為には、各々が理想の生き方をビジョンとして持つ必要があります。キャリア教育などが必要な施策にあるでしょう。その次に、理想の生き方を選べる環境が必要です。男女に関係なく昇進の評価がされたり、女性は子育てがあるから時短勤務が認められることも含まれるだろうが本来は男女ともに子育ての為に時間を必要としている人にはその時間が与えられるべきです。そして各々は自分自身が選んだ生き方を進む為には相応の努力が必要です。今よりも望むものが増え、その望みを叶えようとするならば、必要な努力もその分増えます。そして、2030年の私は、自分が理想として選んだ生き方をし、後輩へのロールモデルとなれる人でありたいです。

次のインターンへのメッセージ

BPWのCSWインターンは、NYから帰って来たら終わるものではないです。むしろここからがスタートなのではないかと私は現在思っています。このインターンを通して学ぶこと、得られるものは多いです。目に見えるものなら人脈や知識、目に見えないものならモチベーションやビジョンなど。インターンの経験をどうやって自分自身の将来に生かすのか、そしてどのような社会を今後つくっていくのが大事だと思います。その為には常に目的意識と当事者意識を持ってほしいです。何故インターンに参加

するのか、自分は何をした
いのか、常に自分へ問いかけ
ることをお勧めしたい
と思います。



Reception Party での写真

参加目的・背景

国連という組織・そこに関わる人々を自分の目で見てみたいとの思いと、日本社会における男女の格差や固定観念に対する関心の高まりから、本インターンへ応募しました。社会人や企業と関わる機会が増え、働く女性の地位やライフスタイルに危機感を覚えると共に、今まで浸ってきた勉学の世界とは違う、自分自身の努力だけではどうにもならない世界の存在に恐怖と虚無感を抱くようになりました。

また、これまでの環境や友人たちとの出会いの中で、多くの社会問題の根底にはジェンダー問題が関係しているのではないかという疑問を度々感じてきました。一例を挙げると、子供の貧困は、若くして出産し、シングルマザーとなった家庭でより問題になっている印象があります。生活と子供のために必死に働くも、非正規雇用や低賃金故に生活苦を強いられてしまう。教育の不徹底や、子育てに対する伝統的意識により、女性の方に負担の皺寄せが集まりやすい社会になっているのではないか。こうした様々な問題に対する、世界各国の現状や取り組みを知り、今後の活動に対するヒントを得られたら、との思いで臨みました。

感想

まず、参加している女性たちの熱意やパワーに圧倒されました。自分たちの生きる世界を変えたいという一心で立ち上がり、次々と積極的に意見表明を行う姿は、写真で見た高度経済成長期の労働争議を彷彿とさせる熱気を孕んでいるようでした。さらに、世界では 10 代の学生たちもジェンダー問題に関心を持ち、声を上げている、そのような教育制度がある、ということに大変驚きを感じました。

また、こうした他の国々の現状や諸団体の活動を知ることができたのみならず、国際社会の中での日本の印象・発言力や、各国の社会状況と国際会議における振舞いの関連など、実際の参加者でなければ分からない貴重なご意見を伺う機会も頂き、期待以上の収穫を得ることが出来ました。日本の洗練された態度や真面目さを目の当たりにし、日本人であることを光栄に思うと同時に、この分野における意識や政策の遅れを痛感し、未来の日本に対する危機感が一層深まりました。

そして何よりも、各々の局面で女性活躍の道を切り開いてこられた先輩方から沢山のお話を聞かせていただいたこと、同じような問題意識を持ち世界各国で志高く勉学に励んでいるメンバーに出会えたことに感謝しています。将来に悩む私にとって、一つ一つの出会いが、かけがえのない財産であり、今後進むべき道への大きな手掛かり・原動力となりました。

2030年の社会の理想像

生まれた環境や性別・年齢によって人生を制限されることなく、すべての人が自由に夢を抱き、希望を感じることでできる社会が理想です。今日の日本では、女性にとって働きづらい環境がある反面、男性に過度なプレッシャーをかけてしまう風潮を感じます。さらに、現在の社会システムのまま高齢化が進むと、若者への労働の負担が増す一方、定年により仕事を失い、生きがいを見つけられずに余生を送らざるを得ない人々が増えることが容易に想像できます。「すべての人が生き生きと輝ける社会」を目標に、教育をはじめ、制度・政策や法律の面から改革を進め、人々の意識を変えていく必要があると思います。そして、私自身が、その一端を担うことができれば幸いです。

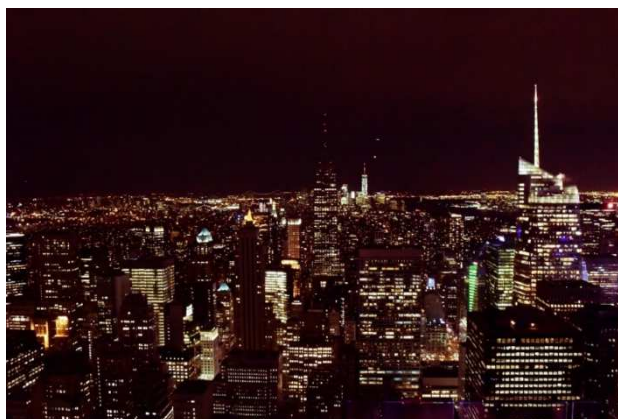


次のインターンへのメッセージ

情けないことに、NYへ着いた翌日からインフルエンザに罹ってしまい、沢山のイベントが開催されている中、4日間ホテルで寝込んでいました。根っからの楽道家なので、自ら望んでも用意できないような良い経験・勉強になったと言いつた聞かせていましたが、やはり、CSWという機会の貴重さや、周りへの心配や迷惑を鑑みると、万全な体調で参加できるに越したことはありません。

目の前にある機会をどう有効活用するかは自分次第だということを、改めて痛感しました。体調管理を含め、事前準備や意欲によって、得られるものが大きく変わってきます。チャンスが巡ってきたときに、それを最大限に生かすことができるよう、日頃からできる準備を重ねておくと良いのかもしれません。自戒を込めて。。

CSW61 インターンの皆さんにとって、新たな発見と感動に満ちた素敵な経験になりますよう、心より祈っています！



Top of The Rock からの夜景

参加目的・背景

実を言うと、私は参加する1年ほど前まで将来は専業主婦になりたいと考えていました。「男は外で働いて、女が家で家庭を守る」という先入観を持っていたからです。しかし、大学三年生のゼミで秋枝しょう子先生について書かれた『後に続く女性たちへ』という本を読み、考えが180度変わりました。女性が社会で働けるように道を拓き、開かれた門戸が決して閉ざされることのないようにと生涯をかけて尽力されてきた女性がいることを知り、私は「このままじゃだめだ」と強く思いました。それと同時に、過去の私を含めた多く女性が男女役割分担など古い価値観や先入観に基づいて将来を選択していることに危機感を感じました。

現在、女性の社会進出が盛んに謳われていますが、一方で専業主婦を希望する女性の割合も年々増加傾向にあります。「なぜこのように社会と若い女性の意識にギャップが生じるのか?」「どうすれば本当に女性が輝く社会を実現できるのか?」「私にできることは何だろうか?」このような疑問に対するヒントを掴みたくて、応募を決意しました。



インターンメンバーの野角さんと

感想

ニューヨークでの日々は、21年の人生の中でもっとも濃く充実した2週間でした。私はここで、日本では感じたことのないような情熱に触れました。女性の地位向上を実現するために世界中からこれだけ多くの人が集まっているということに圧倒されました。誰もが熱い思いを胸に、「世界を変えていこう!」という意識をもって参加されていました。

私は参加に当たって目標を立てていました。それは「女性を古い常識から解放し本当に女性が輝く社会を実現するために、私たちにできることを見つけて日本に持ち帰る」という目標です。様々なイベントや学生同士の会話の中から、一人ひとりの意識改革が重要であると感じました。そして、私ができることは、ニューヨークでの学びや経験を日本で伝えることだと考え、帰国後には講演などお話をさせていただく機会を積極的にいただいています。

2030年の社会の理想像

「男女ともに家庭も仕事も大切にできる社会の実現」

これが私の2030年までの目標です。例えば、子どもを育てたいからキャリアアップを諦める、仕事を優先するために結婚や出産を諦める、仕事が忙しいから家族と過ごす時間がない。こういった「諦め」が必要ない社会。誰もが仕事もライフイベントも、本当に望む選択肢を選ぶことができ、それを周りも快くバックアップしてくれる社会を実現したいです。まだ細かい計画は未定ですが、在学中には、学生に対して男女ともに社会の責任も家庭の責任も両方を担うキャリアパスを描けるようなイベント型のセミナーをしたいと考えています。

次のインターンへのメッセージ

「The world needs a change. It cannot change itself. It's me, It's you, It's all of us who have to bring that change.(Malala Yousafzai)」日本の将来をこれから創っていくのは私たち若い世代です。BPWの方々やインターンシップの仲間からの言葉や刺激を沢山もらって、成長し、「自分だからこそ、できること」をぜひ見つけてください！



NYの街並み

参加目的・背景

高校のころから、興味はあったものの、勉強してもなかなかはっきりとした答えを得られないでいた、日本や世界における女性の地位の問題について、世界中の当事者がどのように考えているのか知り、その主催側である、国連、政府、NGOのつながりを学ぶ絶好の機会だと思い、応募しました。応募時、周りにこの問題をフランクに語れる友人や大人が少なかったこともあり（留学中であるということも重なって）、同じように女性の地位向上に興味関心を持ち、その課題のためにニューヨークまでくるような熱意溢れる方々とお話し、議論したかったことも大きいです。

感想

私が目標としていた、学ぶことと議論することは十分すぎるくらい果たすことが出来ました。学びとしては、BPWを通してCSWに参加したことで、国連、政府そしてNGOという三者すべてのつながりや役割を、身をもって学ぶことが出来ました。特に見えにくかったNGOと政府の関係性は、日本政府代表部ブリーフィングに参加することで理解が深まりました。そして、このインターンに来たことで得られたのは、何よりもBPW関係者の方々、インターンの仲間との出会いです。

日本各地から集まったパワフルな女性たちと一緒に過ごした2週間は毎日が新しい知識とアドバイスと議論でいっぱいでした。出逢いに恵まれ、日本で私たちがこれからどう行動していけるか、選択肢が広がったように思います。CSWに来ることが目的ではなく、これが始まりだと強く感じました。これからCSWで学んだことを全て使い、日本における女性の問題意識の低さを高めていけたらと思っています。



印象に残ったイベントの様子

2030 の社会の理想像

2030 年という私たちインターンの世代が社会において、中心的な役割を果たす時代になっているでしょう。その時、私たちインターンのような、女性の地位を上げたい、発言力のある、強い女性たちが、日本における「普通の女性」になっているはずですよ！というかしてみせます！私たちがスタンダードになって初めて女性が女性として輝く社会になるのだと思います。

次のインターン生へのメッセージ

このインターンを知り、参加することを決めた時点で、皆さんはすでに問題意識を持ち、立ち上がった強い女性です。この2週間は自分の好きな分野に関する知識や意見を存分に深められる時間です。その時間をどれだけ濃く充実した時間にするかは自分次第だと思います。若い日本人女性の CSW 参加はとても歓迎されてると感じました。どんどん質問をして、話聞かせてもらい、自分の中に疑問や意見を持ってください。それを相談し、議論する相手は幸せなことにすぐ近くにたくさんいます。こんな楽しいことはないですよ！最高の2週間を過ごしてください。



インターンメンバーと食事

CSW についての説明

CSW(国連女性の地位委員会)とは 1946 年に設置された国連経済社会理事会の機能委員会のひとつであり、毎年 2~3 月頃に 2 週間、ニューヨークの国連本部にて開催されています。

CSW60 は 2016 年 3 月 14 日から 24 日にかけて行われました。

CSW 期間中、我々インターンが参加したイベントは大きく下記の 2 つあります。

①CSW60 一般のイベント

②BPW が調整してくださった特別イベント (該当: 目次 6)

本項目では①に該当する CSW60 イベントの大まかな用語解説をいたします。

1. オフィシャル・ミーティング

各国の政府代表部が優先テーマに関連するステートメントを発表し決議に向けて議論がなされる会議。国連本部の一室で行われ、我々インターンはその会議の傍聴をすることができ、決議の過程を間近に目にすることができました。期間の途中から合意結論の審議が始まると、ミーティングは非公開となります。



オフィシャル・ミーティング傍聴時に撮影

2. モーニング・ブリーフ

CSW 期間中、1日はこの「モーニング・ブリーフ」から始まります。前日までに本会議で話し合われたことや、決議までの過程において現状どの段階まで到達しているのかなどを NGO 参加者に共有する会議を指します。ここでは NGO 参加者が本会議の議長団に質問・意見をすることが設けられているため、決議案に書き残してほしい文言の要求などを行っている団体が見られました。



モーニング・ブリーフの様子

3. サイド・イベント

各国政府が開くイベントで、NGO や国際機関と共催している場合があります。国連本部にて行われ、各国政府の見解や外交戦略が垣間見え興味深いです。比較のお堅い雰囲気。私たちがお手伝いとして参加した BPW のイベントはこちらに分類されます。



日本主催のイベントの様子

金曜の夜という時間帯にも関わらず、100 人程の会場がほぼ満席状態でした。

4. パラレル・イベント

世界各国からの NGO により国連本部近辺で開かれるイベント。アクティビストたちが市民の声を社会に届けようと現地の被害の現状をプレゼンしたり、当事者が直接話をしたりして社会に問題の深さを訴えかけようとするものが多いように感じました。今年は、二週間で約 350 ものイベントが開催されていました。同一時間帯に複数のイベントが行われており、会場も分かれているため、参加者は自分の関心のあるものを事前に調べ、戦略的に計画を立てておくが良いです。



パラレル・イベントの様子

参加イベント紹介

インターン生が参加したイベントの一覧と

インターン生の印象に残ったイベントの報告を紹介します。

参加イベント一覧 日付・イベント種類・イベント名・主催者の順に記載
 (●=パラレル・イベント、○=サイド・イベントの意)

【石川】

3/14	●	Engaging Employers, Empowering Women: How to Activate the Private Sector to Advance Women in the Workplace	San Francisco Department on the Status of Women, Gap, Inc., Google
	●	Ensuring Gender Equality and Sustainable Livelihood in Post-disaster Situation	Women's Rehabilitation Center (WOREC Nepal)
3/15	●	Empowering Women in Small Business Through Online Training & Mentoring that Develops Sustainable Enterprises Providing Social, Environment & Economic Community Benefits	Belmont Business Enterprise Centre Inc. (BEC Global), TCF WA Inc. (TCF Global), BPW Western Australia (BPWA WA)
	●	Feminism - From Lobbyism to Parliamentarism	FI
3/16	○	Closing the pay gap	BPW Germany, Germany Mission
3/17	●	Not the cost	National Endowment for Democracy
3/18	●	Pornography and Prostitution; What's the difference?	National Organization for Women Shelters and Young Women Shelters in Sweden, Roks
	●	Legal Mechanisms to Advance the Sustainable Development Goals	International Federation of Women in Legal Careers
	○	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group

【須永】

3/14	●	Girls Re-Think Inequality and Privilege	Girl Scouts of the USA, Girls Learn International, Working Group on Girls
3/15	●	role of women physicians in sustainable development by addressing VAN	Medical Women's International Association, African Views, American Medical Women's Association
	●	women and technology	WITNESS

3/16	●	Syria women speak on realities in protracted conflict hopes for peace	Women's UN Report Network-WUNRN, Euromed Feminist Initiative IFE-EFI
3/17	○	Tangible and measurable tools for the prevention of violence against women	Permanent missions of Lithuania and Japan to the UN, European Institute for Gender Equality (EIGE)
3/18	●	violence against older women	National Organization for Women Shelters and Young Women Shelters in Sweden, Roks
	●	The power of Stories in Preventing Violence against women	Breakthrough
3/21	●	Women and girls,HIV and violence	Salesian Missions, Asian and Pacific Islander Coalition on HIV/AIDS (APICHA), UNAIDS, and the Center for Community and Urban Health at Hunter College
	○	Violence against Women Combating Sexual, Domestic, Physical and Psychological Violence towards Women, especially in Crises	Germany, World Association of Girl Guides and Girl Scouts
3/22	●	Sigma Gamma Rho SororityA34Life HIV	Sigma Gamma Rho Sorority, Incorporated Act Against AIDS Initiative, Centers for Disease Control & Prevention
	●	Is the Eradication of Violence Against transgender women key to our achievement of gender equality and sustainable development?	Legal Resource Centre
3/23	○	The Role of the Arts in Helping to End Human Trafficking	United States and UNODC
	●	Body confidence : overcoming a silent barrier to girls development	World Association of Girl Guides and Girl Scouts, Dove Self-Esteem Project (Unilever)
3/24	●	women's rights under armed conflict-Japan's approach to respect women	Japanese Women for Justice and Peace, Grass Roots Actions for Peace and Justice in Japan, Researchers of History on Modern Japan, Alliance for Truth about Comfort Women

[M. T]

3/14	○	Women in Politics: Successes, Failures and Challenges	Permanent Mission of the Republic of Albania to the United Nations Permanent Mission of Israel to the United Nations Parliament of the Republic of Fiji The League of Women Voters The Pan Pacific and Southeast Asia Women's Association (PPSEAWA) International Council of Jewish Women (ICJW) World Jewish Congress NGO/CSW
	●	Greater Voice & Participation for Women: Nonprofit/CBO Voter Engagement Strategies in North America	YWCA USA, YWCA Canada, Nonprofit Vote
3/15	○	Ensuring Women's Equal Participation in the Cyber Revolution	Centre for Social Research
	●	Engaging Women in Sustainable Development: Family. Transformation. Co-Prosperity.	Women's Federation for World Peace, International (WFWPI), Association de Intervention pour les Meres, AIM; and Family Watch International
	●	Women and Technology: Effective Video Documentation of Sexual Violence - Lessons Learnt	WITNESS
3/16	○	Closing the Pay Gap	BPW-GERMANY/GERMAN MISSION
3/18	●	Violence Against Older Women	National Organization for Women Shelters and Young Women Shelters in Sweden, Roks
	●	Economic Empowerment of Women - How International Law Can Help	International Law Association Committee on Feminism and International Law
	●	Which Policies Best Respect Sex Workers' Rights? A Conversation with Sex Worker Rights Defenders	Best Practices Policy Project, Urgent Action Fund for Women's Human Rights, Astraea Lesbian Foundation for Justice, Frida: The Young Feminist Fund, American Jewish World Service
	○	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch, The National Women's Committee of the UN NGOs, The International Women's Year Liaison Group

3/21	●	When Democracy Limits Women's Rights	Center for Egyptian Women's Legal Assistance (CEWLA)
3/22	●	Advocacy Training	NGO CSW/NY
	○	Women and Girls: Victims of Rape and Other Forms of Sexual Violence in Conflict	Holy See
	●	Youth Dialogue and Drama: Empowerment & SDGs	Concepts of Truth, Inc., JMJ Children's Fund of Canada, Inc.
	○	Building Resilience in Fragility: Women's Empowerment in Action	UN Women, Japan
3/23	●	Eliminating Cyber Violence Against Women: Challenges on Revenge Porn and Legal Action	Taipei Women's Rescue Foundation, C.A. Goldberg, PLLC, Cyber Civil Rights Initiative

【中尾】

3/15	●	Role of Women Physicians in Sustainable Development by addressing VAW	Medical Women's International Association, African Views, American Medical Women's Association
3/16	○	Closing the Pay Gap	BPW-GERMANY/GERMAN MISSION
3/17		Breaking Stereotype: Young Women's Leadership in Taiwan	Foundation for Women's Rights Promotion and Development
3/18	○	Breaking persistent challenges for equality in media	UNESCO
	○	Fighting sexism and hate speech Online - a Nordic Panel of Experts	Finland, Nordic Council of Ministers
	●	Which Policies Best Respect Sex Workers' Rights? A Conversation with Sex Worker Rights Defenders	No Limits for Women, United to End Racism, and Sustaining All Life
3/21	○	Toward a Sustainable Lifestyle: Women Empowered and Family Strengthened.	Honduras, Universal Peace Federation, United Families International, Howard Center for Family, Religion and Society, The Leadership Foundation

	○	Sex and Sexual Exploitation: Ending Sexual Exploitation and Sexual Violence Against Women and Healing Their Effects	No Limits for Women, United to End Racism, and Sustaining All Life
--	---	---	--

【野角】

3/14	●	Enhancing national institutional arrangements for gender equality	The Ministry of Solidarity, Women, Family and Social Development of the Kingdom of Morocco, The Union for the Mediterranean, UN Women
	●	Ministerial round table Strengthening normative, legal and policy frameworks for gender equality & women's empowerment	
3/15	●	Voluntary presentations: 'The elimination and prevention of all forms of violence against women and girls'	Brazil, China, Turkey, Egypt, Japan, Estonia
3/16	○	Partnerships for change: human rights monitoring and legal reform on domestic violence and batterers' Intervention Programs	The Advocates for Human Rights
	○	Closing the pay gap	BPW Germany, Germany Mission
3/17	○	Tangible and measurable tools for the prevention of violence against women	Permanent missions of Lithuania and Japan to the UN, European Institute for Gender Equality (EIGE)
3/18	○	Breaking persistent challenges for equality in media	UNESCO
	○	Training in Implementation: the Role of Civil Society in Making the SDGs Work	Pacific Rim Institute for Development Education, ADVANCE, EBBF, NAWO, Nigerian (Tanzania), Widows' Rights International
	○	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group
3/21	○	Child, early and forced marriage event	Canada, Bangladesh

3/22	o	Launch of the Step It Up for Gender Equality Media Compact	UN Women
	o	Withdrawal of IC & its Implications for FL in Afghanistan	Afghanistan
3/23	●	Women in decision-making: Getting women to the top	International alliance of women, Equality Now, All India women's conference, Council of women world leaders, Reflective democracy campaign
3/24	●	Creative Collaborative Partnerships: Empowering Women and Girls through Nursing Education, Service, Advocacy and Research. Exemplars of Action	Nightingale Initiative for Global Health, Albert Schweitzer Institute, UN NGO Committee on Mental Health, Cambodia Foundation for Higher Education
	●	The Positive Impact Made by Microcredit on Marginalized Women in India	Aide International Pour L'enfance, Congregation Notre Dame

[A. H]

3/18	●	New Paradigm of Gender Equality Post-2015: Girls and Boys Go Together	Shih Chien University, MHAT
	o	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group
3/21	●	Women's Empowerment, Part 2	Wales Assembly of Women, European Women Lawyers Association, Safer Wales, University of the West of England
	●	Finding the 1 for 7 Billion: How Civil Society Can Influence the Process to Select the Next UN Secretary-General	1 for 7 Billion Campaign, WFM-Institute for Global Policy
	●	Equality and Empowerment of Women and Girls Addressing Mental Health and Cardiovascular Disease: Findings from Clinical Innovations and International Research	NGO Committee on Mental Health, Inc., International Psychoanalytical Association, Nightingale Initiative for Global Health, American Psychiatric Association, Soroptimist International,

			International Council of Women
3/22	●	Fashion Show and Cultural Soiree	Arab African American Women's Leadership Council, CIFE (Council International Women Entrepreneurs), Moroccan Society of New York
	●	Youth Dialogue and Drama: Empowerment & SDGs	Concepts of Truth, Inc., JMJ Children's Fund of Canada, Inc.
3/23	●	Fashion Show and Cultural Soiree	Arab African American Women's Leadership Council, CIFE (Council International Women Entrepreneurs), Moroccan Society of New York
	●	Youth Dialogue and Drama: Empowerment & SDGs	Concepts of Truth, Inc., JMJ Children's Fund of Canada, Inc.

【村嶋】

3/14	○	Women in politics: Successes, Failures & challenges	Permanent Mission of the Republic of Albania to the United Nations Permanent Mission of Israel to the United Nations Parliament of the Republic of Fiji The League of Women Voters The Pan Pacific and Southeast Asia Women's Association International Council of Jewish Women World Jewish Congress NGO/CSW
	●	Thinking Beyond the Possible: Inspiring Future Female World Leaders	Justina Mutale Foundation for Leadership, National Alliance of Women Organizations, UK, Widows Rights International, Advance, ICGJI
3/15	○	Voluntary presentations: 'The elimination and prevention of all forms of violence against women and girls'	Brazil, China, Turkey, Egypt, Japan, Estonia
3/16	●	Women and Girls at the Center for Growth and Sustainable Development	Gender and Developmental Research Group (GADREG), Nigeria, Gynae Care Research, Cancer Foundation, Nigeria.
	○	Closing the pay gap	BPW Germany, Germany Mission

3/17	●	Breaking Stereotype: Young Women's Leadership in Taiwan	Permanent missions of Lithuania and Japan to the UN, European Institute for Gender Equality (EIGE)
3/18	●	Breaking persistent challenges for equality in media	UNESCO
	●	Training in Implementation: the Role of Civil Society in Making the SDGs Work	Pacific Rim Institute for Development Education, ADVANCE, EBBF, NAWO, Naserian (Tanzania), Widows' Rights International
	○	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group
3/21	●	Making a Difference for Peace! One Woman 's Solo Journeys Documenting the Origins of the World's Great Religions to Find a New Way to Peace	The Peace Caravan Project, The New York Foundation for the Arts
	●	Women's Role in Sustainable Development and Social Change	New Future Foundation Inc.
3/22	●	Fashion Show and Cultural Soiree	Arab African American Women's Leadership Council, CIFE (Council International Women Entrepreneurs), Moroccan Society of New York
	●	Youth Dialogue and Drama: Empowerment & SDGs	Concepts of Truth, Inc., JMJ Children's Fund of Canada, Inc.
3/23	○	The Role of the ARTS in Helping to End Human Trafficking	United States and UNODC
3/24	●	Women 's Rights under Armed Conflict – Japan 's Approach to Respect Women	Japanese Women for Justice and Peace, Grass Roots Actions for Peace and Justice in Japan, Researchers of History on Modern Japan, Alliance for Truth about Comfort Women

【山本】

3/14	○	Women In Politics: Successes, Failures & Challenges	Permanent Mission of the Republic of Albania to the United Nations Permanent Mission of Israel to the United
------	---	---	--

			Nations Parliament of the Republic of Fiji The League of Women Voters The Pan Pacific and Southeast Asia Women's Association (PPSEAWA) International Council of Jewish Women (ICJW) World Jewish Congress NGO/CSW
	●	Thinking Beyond the Possible: Inspiring Future Female World Leaders	Justina Mutale Foundation for Leadership, National Alliance of Women Organisations, UK, Widows Rights International, Advance, ICGJI
3/15	●	Raising the Floor and Breaking the Glass Ceiling in Justice, Politics, Education and Medicine: Empowering and Protecting the Rights of Women and Girls	International Police Executive Symposium
	●	Men and Youth Mobilize for the Abolition of Prostitution	European Women's Lobby, Equality Now, Coalition Against Trafficking in Women
3/16	●	Partnerships for Change: Human Rights Monitoring and Legal Reform on Domestic Violence, and Batters ' Intervention Programs	The Advocates for Human Rights
	○	Closing the pay gap	BPW Germany, Germany Mission
3/18	○	Breaking persistent challenges for equality in media	UNESCO
	○	Fighting sexism and hate speech Online - a Nordic Panel of Experts	Finland, Nordic Council of Ministers
	○	Protecting women's human rights against violent extremism	Office of the High Commissioner for Human Rights (OHCHR), UN Women
	○	Our Challenges for Eliminating Gender Gaps in Economy	Japan, CEDAW, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group
3/21	○	Toward a Sustainable Lifestyle: Women Empowered and Family Strengthened.	Honduras, Universal Peace Federation, United Families International, Howard Center for Family, Religion and Society, The Leadership Foundation

	○	Child, early and forced marriage event	Canada, Bangladesh
3/22	○	Advancing women's substantive equality in the implementation of the SDGs: Securing women's human rights related to land, health and work	Finland, International Network for Economic, Social & Cultural Rights (ESCR-Net) Women and ESCR Working Group
	○	Launch of the Step It Up for Gender Equality Media Compact	UN Women
	○	Building Resilience in Fragility: Women's Empowerment in Action	UN Women, Japan
3/23	○	The road from CSW to CIVICUS to Women Deliver to AWID: strengthening actions	UN Women, AWID and Women Deliver
	●	Women in decision-making: Getting women to the top	International alliance of women, Equality Now, All India women's conference, Council of women world leaders, Reflective democracy campaign
3/24	○	Technology empowering women: Closing the digital gender gap to achieve Agenda 2030	United Nations Office of Information and Communications Technology (OICT), International Telecommunication Union (ITU) and the Permanent Missions of Switzerland, Tunisia, Costa Rica and UN Women

印象に残ったイベント

【石川綾佳】

1. Ensuring Gender Equality and Sustainable Livelihood in Post-disaster Situation

～Addressing post-earthquake cases of gender based violence～

2015年4月に発生したネパール大地震後に、現地では起きていた悲劇を読者のあなたは想像したことがあるでしょうか。被災直後の社会の混乱下横行した、性犯罪と人身売買です。このような被害にあった女性・子供、また逃げる場所のない女性・子供を対象に、安全衛生の保たれたシェルターを提供するため活動している Women's Rehabilitation Center(WOREC)主催のイベントでした。震災後協力して活動している MADRE という人権団体や、UNDP（国連開発計画）の方もプレゼンテーションをされました。

災害発生時や緊急時に、女性の「尊厳」を守ること。「妊娠・出産」できる衛生環境を守ること。日本では当たり前の用に思われることかもしれませんが、ネパールのような国では災害発生時、政府や自治体は機能せず、市民が自ら主体性をもって女性の心身の健康を守るため、対応しなければなりません。

「災害時にも（一般・性犯罪による）妊娠や出産は無くならないのよ」と訴える UNDP の職員の方の言葉が印象的でした。実際にネパールでは震災後に性犯罪率が増加したそうです。私自身東日本大震災後に地元の方と関わる機会が多かったこともあり、当団体の代表の方に話しかけ、自分にできることは無いかと尋ねました。当該活動にご興味のある方は、ぜひ募金または周知活動のお手伝いを御願い致します。

Website: www.worecnepal.org Email: ics@worecnepal.org

2. Feminism - From Lobbyism to Parliamentary

Feminist Initiative とはスウェーデン発のフェミニスト政党の母体となるロビー団体です。スウェーデン留学中に関係者にインタビューした経験があり、今回のディスカッションにも参加しました。アイルランド、フィンランド、アフリカの国等で女性政治家だった方々、女性政治家の擁護活動をする方々や各国で第一線にて活動をされている女性リーダー達が、それぞれの立場で女性が権力を持つことによる社会から受ける差別・偏見・犯罪・誹謗中傷について、更にそれらをどのように克服してきたのか、国境を超越し議論をしていました。苦しみや憤り、たとえそれらと日々戦わなければならなくとも、自分たちが今行動しなければ何も変えることができない。だから諦めず、挫けず、立ち向かい続けるのだと語り合い共有し合う、その場で形成されていたコミュニティは非常に熱量に溢れていました。

女性の政治参加は世界共通の課題であり、立候補者や女性政治家が背負う苦しみは同じです。私が日々日本で課題ととらえて来た問題に、真っ向から向き合い、世間の逆行にもまれながらも解決のために取り組んできた先人達の、経験や想い、次世代へのメッセージがこめられた、一生忘れることのできない空間がそこには存在していました。

【須永彩佳】

1. Violence against Women Combating Sexual, Domestic, Physical and Psychological Violence towards Women, especially in Crises

このイベントは女性に対する暴力を様々な面から捉えたイベントでした。性的暴力、身体的暴力、精神的暴力、家庭内暴力…様々な形態の暴力についてその特徴や現状、解決方法などを話し合うイベントでした。

家庭内暴力は、とくに閉じられた空間で起こることなので現状の把握とくに数字として挙げられる数を実態と離れているということがわかりました。また精神的暴力は、女性のエンパワーメントにとってもマイナスの影響を与えています。女性がもっと輝く社会にするためには、女性自身がもっと自信をもって生活できる環境が必要であると感じました。そして身体的暴力は、命を落とす可能性がとても高く、話を聞くだけでつらいものでした。

性的暴力については、アメリカでは平均11歳でポルノグラフィティを初めてみるということで、性がありふれた生活に慣れてしまい、女性を人間として対等に見ることができない人がいるということはとても悲しいことです。確かにポルノグラフィティについては表現の自由を主張される方もいると思いますが、それによって傷つく女性が生まれてはいけないと思いました。

2. Role of women physicians in sustainable development by addressing VAN

国際女医会主催のイベントで、女医が世界でどのように活躍しているのかをドイツ、アメリカ、イギリス、ナイジェリア、日本、オーストラリアなどから説明がありました。女性医師を取り巻く環境はとても厳しいものがあるとともに、そこで勇敢に戦っている女性医師の姿が見られてとても嬉しかったです。

パンデミックを防ぐにはどうすべきか、児童婚の問題、高齢者医療の問題、医学生教育、医師の自殺など様々な問題に対してどうアプローチして行くのかという話がありました。

医療の世界は未だに男性社会が継続しており、そこで女性医師どう活躍するかという話では、女性医師が結束して大きな力になっているという事実を知ることが出来てよかったです。国際女医会のような大きな団体があるということも知らなかったなので、私も今後世界で活躍できる女性医師になりたいという思いがいつそう強くなりました。

【M. T】

1. Indigenous Women's Movements to End Violence Against American Indian, Alaska Native, and Aboriginal Women

(主催：Alaska Native Women's Resource Center 他)

北米大陸の先住民の女性による先住民女性迫害の事実を訴えるパラレル・イベント。
(途中参加のアラスカ先住民の方のお話のみ参加)

先住民は一般人より暴力、殺害、貧困、差別などの被害が高まることを切々と訴えるトークイベント。カナダでは今までに1200人近い先住民女性が失踪又は殺害の被害に遭っていること、居住地域に学校が多く建設されていないことや仕事を得られないことから40%以上の先住民女性、半数以上の先住民の子供たちが貧困から抜け出せないことを知り、先住民に対する差別の根深さを初めて認知することとなりました。情けないことですが、日本で先住民の方々を意識する機会は多くなく、女性問題に先住民という観点から切り込んで考えたことがなかったため、新たな視点を得られた貴重なイベントでした。モーニング・ブリーフィングの最中からindigenous womenの権利が十分に語られていないと繰り返し主張していたしていた団体がありましたが、国際社会が重要問題として認識するためにも、更なるアピールが問題解決への大きな一歩となると感じました。

2. When Democracy Limits Women's Rights

(主催：Center for Egyptian Women's Legal Assistance(CEWLA))

研究者、弁護士2人によるエジプトでの女性の人権侵害に関するパネルディスカッション。エジプトはアラブの春によって政治に新たな兆しが見られたものの、FGMsや一夫多妻制が未だに残っていることを例に挙げ、女性の人権問題に対する意識の低さを説明し、改善の必要性、民主主義の重要性を強調されていました。エジプトの民主主義は成熟しておらず、女性が自由に意見を述べることができないうために男性中心で形成された「世論」がそのような文化を容認してしまっていることが大きな問題だと語られていました。このイベントを通し、エジプトが未だにそのような文化を保持することへの憤りを感じると同時に、日本でも未だ十分とは言えない女性の政治参加について、改めて問題意識を抱くこととなりました。

【中尾陽美】

1. Breaking Stereotype: Young Women's Leadership in Taiwan

台湾の女子大学生 5 人で結成された TWeeTHer Taiwan による、台湾女性のリーダーシップに関するパラレルイベントに参加しました。

イベントは特に動画が素晴らしかったです。この動画では、台湾で活躍する Education, Climate Change, Social Enterprise, Culture & Art, STEM 分野の若い女性のリーダーたちにインタビューしています。インタビュイーたちは、女性のリーダー増加の障壁になる子供の保育問題、アジアをはじめとして女性は夫の家族と同居するという風習が女性にもたらす働きにくさなど、日本でも多くの女性が直面する問題について述べていました。中でも、私は動画中のあるフレーズに感動しました。それは「成長したらやりたいこと・ほしいことが自動的に見つかるわけではない。本当にやりたいことがわからないと信念と動機を得られない。」です。女性の社会進出に伴い、今の女性は配偶者の有無、子供の有無、仕事の有無で 8 通りの人生を選択できるようになりました。しかし台湾をはじめとして、女性の労働にはさまざまな問題が付きまっています。私は何がほしいのか。深く考えさせられる言葉でした。

2. Which Policies Best Respect Sex Workers' Rights? A Conversation with Sex Worker Rights Defenders

Sex worker として働いてきた女性 3 人による、Sex worker の権利について考えるイベント。

スピーカーによると、Sex worker は 16-22 歳の少女が多い、暴力を受けやすい、暴行を受けても警察・近所の人にはまともに取り合ってくれない、ウガンダには LGBT のトイレが無いことを、例を交えて冷静に話してくれました。私は、「差を作らないこと」が大切だと思いました。誰かに対して「差を作る」とは、「自分と同じ人間」だと思わなくなることです。あらゆる人間が、あらゆる人間に対して敬意を持つよう努力するという至極当たり前なことの大切さに改めて気付くことができました。

その後イベントと一緒に参加したインターメンバーの一人と、Sex worker について意見を交わしました。自分の娘が働きたいと言ったらどうするか、など中身の濃い意見を交わし、思い出深いイベントになりました。

【野角采加】

1. For change: human rights monitoring and legal reform on domestic violence and batterers` intervention programs

法曹の方を中心とした政策提言を行い尚且つ政策実行を支援する NGO による、DV に関する法改革と DV 加害者の扱い方に関して。アメリカや先進国の経験では、DV 防止法ができてバタラー(DV 加害者)が見逃され野放しになり、DV 被害が継続しました。警察官、裁判官の間に、バタラーとは自己コントロールの下手な男性であり DV は自制心の喪失による「暴力の自然爆発」だという誤解や偏見があったことが原因です。この誤解と偏見を拭い去るために DV とは「恐怖による支配」なのだという視点が強調され、それを踏まえて、先進国の経験を参考に、バタラーを見逃さずに把握するための取り組みが紹介されました。

今回紹介されたモルドバのケースでの取り組みは大きく三つあって法整備、警察官の意識改革トレーニング、シェルター作り。それまでのステレオタイプからの脱却は非常に難しいことや、警察官や裁判官という一般的にはエリートの意識を改革する難しさも語られました。また DV にあった女性は警察には行かないが病院には行く傾向にあります。だから警察に届けられた数よりも病院で数えられた数字の方が多く、より真実に近いのです。すべてのピースをパズルのように組み合わせられる法整備が必要だと提案されていました。女性自身がどうこうというよりも、その周辺関係者にフォーカスされていた点が特徴的でした。

2. Breaking Persistent Challenges for Gender Equality in Media

スピーカーがまずユニークでした。UNESCO の活動内容は世界遺産だけだと思っている人もいますが、メディアや教育に関しても活動しています。UNESCO と UN Women 以外には、韓国のテレビ局、元 CNN スペインなど、実際にメディア業界の方がいらしてかなりリアルな現状を聞きました。女性を巻き込んだメディア業界というものをトレンドとして作っていく必要があるとの意見も。

そのためにどうするのか。「count voice」というフレーズをだれかが使っていました。女性自身が声を上げ、自身の体験と提案意見を話し、それをカウントしていく必要があるということです。ただ、私はそれだけではイベントとして不十分だと感じました。テレビ局や国を横断してそれをやるならいったい誰がどうやって声を出し、それを誰がカウントし、どのように公表していくのか、実行の方法等が非常に疑問に思いました。



【A. H】

1. New Paradigm of Gender Equality Post-2015: Girls and Boys Go Together

中国の実践大学と MHAT(Mental Health Action)の共催イベントです。インフルエンザによる4日間の欠席後、初めて参加したものであり、また、自分と同じ年頃の学生が登壇していたこともあって、非常に印象的でした。教育の重要性を軸に、経済や健康面における向上、賃金格差や女性・子供の貧困問題、自然災害後の性的暴行など、多岐に渡る具体例が展開され、説得力のある内容でした。

『知識とは唯一人から奪われることのないもの』であり、『教育は世界を変える最強の武器(by マンデラ大統領)』である。

イベントの中で引用されていたこの二つの言葉が、今も心に響いています。日本では義務教育の過程で当然に学ぶことを、生まれた環境の違いのために、知る機会もなく大人にならざるを得ない子供がたくさんいます。そして、教育の欠如のために、様々な局面で被害の皺寄せを受ける多くの女性がいます。学ぶことの大切さ、学べることの有難さを改めて実感するいい機会となりました。



2. Finding the 1 for 7 Billion: How the Society Can Influence the Process

To Select the Next UN Secretary General

このパラレルイベントは、これまで安全保障理事会内のみで行われてきた国連事務総長選出に際し、選出過程の透明化と民意の反映を掲げ、2014年に開始されたキャンペーンが中心になっています。世界を変革するには有能なリーダーが必要だという考えのもと、人権やジェンダー平等の達成、気候変動や紛争問題の解決、SDGsの確実な実行等を目標として活動を行っているそうです。

大学のクラブのような小さな団体でさえ、長の方針が体制や結果に大きな影響を与えるのを痛感することが度々あります。国連事務総長ともなると、誰が就任するか次第で10年後の世界の在り方が180度異なる可能性も否定できません。とりわけ、ジェンダーに関する問題はNGO団体を中心とするボトムアップ形式が多い印象なので、上からの積極的な改革は新たな風をもたらすことになると思います。そしてその過程に市民社会の意見、特に、これまで政治の面で軽視されてきた女性の意見を上手く取り入れることができれば、全ての人にとって、より明るい未来になるのではないかと強く感じました。2016年4月現在、次期選挙の候補者8名中4名が女性です。初の女性事務総長誕生によって、様々な固定観念を崩し、Planet 50-50の先駆けとなることを期待しています。

【村嶋祐佳】

1. Thinking beyond the Possible: Inspiring Future Female World Leaders

世界で活躍してる女性たちが、女性たちがどうすればリーダーシップをもっととれるかについてパネルディスカッションを行ったイベントです。

『ロールモデルより、リアルモデルを』

インターネットや書籍上の理想像としての"ロールモデル（見本）"よりも、もっと身近な"リアルモデル（手本）"が必要だという話が最も心に残りました。例えば、学校の先輩や親せき、友人などが挙げられます。このような活躍する女性のロールモデルが増えることが女性の社会進出の追い風になるのではないのでしょうか。

他にも、他人のスタンダードではなく、自分なりのリーダーシップをとること。女性同士で競い合うのではなく、お互いに協力して地位を上げていくことの大切さ。

また、「社会でリーダーシップをとっている人たちが次の世代にそのハウツーを伝えていくべき。」と聞いて、まさにこのインターンシップで上の世代の方の話聞くことが一つ当てはまるのかなと感じました。

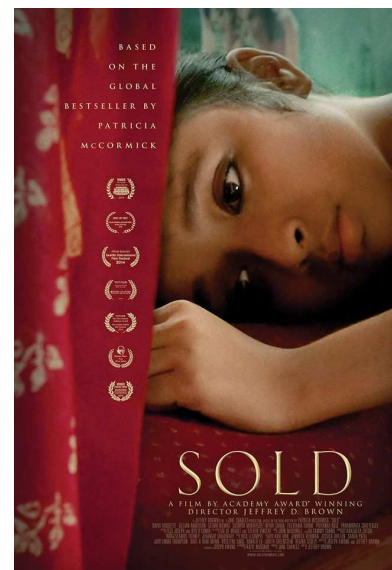


2. The Role of the Art Helping to End Human Trafficking

Human Trafficking について一人の少女に焦点を当てた映画「SOLD」の公開について。被害にあった女の子やその家族を追うドキュメンタリー映画。問題に対する映像でのアプローチは誰にとっても理解しやすく、多くの人に知ってもらうためにもとてもいい方法だと感じました。社会的インパクトの大きな方法のひとつと捉えられ、短縮バージョンを学校に配る活動も進めていくそうです。多くの人に見てもらい、事実を知ってもらい、「どうにかしなくては！」という気持ちになってもらいたいと感じました。

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/SOLDmovie>



【山本朱音】

1. Fighting sexism and hate speech online -a Nordic panel of experts

オンラインにおけるセクシズム、ヘイトスピーチをどうしたら無くせるかについての北欧団体主催のイベントが、非常に充実していました。女性のために活躍する弁護士、リベンジポルノの被害にあった女性など、実際に被害にあった方と、被害者支援をしている方双方の経験と変えていくべき点を聞くことが出来ました。

「21世紀になり、オンラインにて権利がないならば、社会においても権利があるとは言えない」。ネット上の権利侵害はリベンジポルノやセク스팅など、面と向かって顔の見えないネットにおけるコミュニケーションが普及するにつれ様々に形を変えてきました。多くの場合、被害を受けるのは女性そして加害者となるのは男性という構図ができています。オンライン環境を誰もが持つ現代、この問題は他人ごとではなく、私たちは被害と隣り合わせで生きているのです。

ネット上に一度出回ってしまった動画や画像を完全に消去することはほぼ不可能です。それは一生残る傷になるのです。被害者が、新たなチャンスをつかもうとしたとき、ネット上から動画や画像が出てしまったら、その被害者は反論や言い訳する場も与えられず、チャンスを逃してしまうでしょう。ネット上で女性がこのような女性の被害者を見た際、彼女たちを自らとは「違う存在」として見る傾向があるといえます。つまり、理由が何であれ、その行為自体が恥ずべきことで、同じ女性ではなく汚らしい存在としてみなし、助けの手を差し伸べないのです。女性を守るのは男性だけですか？その構図がある限り、女性のエンパワメントは進みません。女性は女性同士で助け合って、女性の地位を築いていくべきではないでしょうか。

2. “Toward a sustainable lifestyle: women empowered and family strengthened”

誰にでも関係する「家族」のあり方から、女性の地位について切り込んでいく視点が非常に興味深かったです。自分の経験とも照らし合わせ考える機会となりました。

“水に落ちた一滴は小さくても、その一滴が周りに与える影響は非常に大きい。”

この例えでパネリストが強調したのは、父親または母親の不在は、子供が成長したときその子の性格形成に大きな影響を及ぼすということです。社会は人でできているため、もちろん人に影響すれば、社会にも影響を与える。家族はそれほどの強いインパクトを持っているのです。女性の地位と、家族は切っても切り離せない関係にあります。なぜなら、結婚や出産に多く時間を割くのは女性であり、家庭のためにキャリアを諦める選択をするのは大半が女性であるのです。日本でも家族のあり方を見つめ直すことで、ワークライフバランス、育児休暇、男女役割分業など様々な課題が浮かびます。私たちは人の原点でもある家族、そして家族を構成する男女の意識を少し変えていくことで、誰にとっても働きやすい社会を作ることが出来るのです。子供にとって、最初の教育者である家族は原因でもあり、解決策でもあるのです。

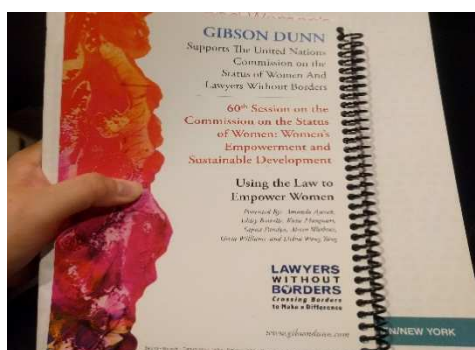
特別イベント紹介

- Consultation Day
- アントワネット氏との交流
- BPW dinner
- Reception Part
- 政府代表ブリーフィング
- 米日財団昼食会
- BPW 内での交流

～Consultation Day 3/13～

CSW の NGO 主催の開会式です。CSW 公式会議が始まる前日、今年は 3 月 13 日に開催されました。日曜日にもかかわらず、朝早くから会場前にたくさんの人が並びます。午前中には、シアターにて CSW 議長の挨拶や、UN Women 事務局長などを交えたパネルディスカッション、そして、各国からのアーティストによるパフォーマンスなど。午後は会場内にて開かれる 5 つの分野に分かれ、基調講演が行われました。自分の興味関心のある分野を探し、各分野の第一線で活躍する NGO の女性たちの話を聞くことが出来ました。このように盛りだくさんの一日でした！

活気に溢れた各国 NGO からの参加者とともに CSW の雰囲気を感じられる最初のイベントです。会場でもらえる、CSW60 NGO 公式パンフレット、NGO 主催イベント（パラレルイベント）の一覧の載った冊子は、期間中の必須アイテムでした。



(左)パラレルイベント一覧の冊子 (上)閉会時のパフォーマンス

～Meeting with Ms. Antoinette 3/13～

Antoinette 元 BPW 会長が、13日の夕方、日本 BPW のメンバーとインターン一同を、お部屋に招待してくださいました。Antoinette 元会長は、私たちが今回参加したインターン制度を作ることを提案された方でもあり、私たちとの面会をとても喜んでくださいました。今年は特に 8 人と人数が多かったので、「日本の未来は明るい」とおっしゃってくれたのが、嬉しかったです。



～BPW Claire Fulcher Dinner 3/14～

世界各国の BPW のメンバーが一堂に集まるのがこの夕食会です。インターンも皆各国の BPW の方との交流を楽しみました。このように世界中から同じ志を持った女性たちが集まる場で、お話しさせていただいたことは、貴重な機会となりました。

私たちインターンがもっとも若い世代だったので、日本の若い女性の意見を知りたいと言ってくる方が多く、会話が弾みました。インターン一同が前に出て、英語で自己紹介する場面もありました。



～NGO/CSW Reception Party 3/15～



NGO CSW/NY 主催で行われる、立食パーティーです。ニューヨーク大学の会場で行われました。この場では、日本の他団体の方々やインターンと初めてお会いし、交流の場となりました。

素敵な会場でのイベントですので、参加者はフォーマルな服装で集まりました。各国の伝統衣装を着る女性の姿も見られ、多文化を感じられるパーティーでした。

※次年度以降のインターン生へ

来年以降もこれらのイベントに参加することになると思います。期間中の服装は自由ですが、このページの二つのイベントに関してはフォーマルな服装で参加しましょう。カジュアルでないワンピースと、ジャケットがあると便利です。靴もスニーカーではない靴を一足必ず持っていきましょう。

～政府代表部ブリーフィング 3/16, 3/23～

日本政府代表部と日本 NGO との、報告や質疑応答が行われるミーティングのようなもの。日本政府代表部には代表の橋本ヒロ子さんや内閣府の方、国連代表部の方々が参加。NGO からは BPW、大学女性協会など様々な団体から様々な年齢層の方が参加。CSW のオフィシャル・ミーティングの様子や合意結論に関する報告を受けて、NGO 側から日本の提案していることや合意結論に対する質問や指摘を投げかける機会が与えられました。BPW インターン生にもその権利はあるので、インターン生も各イベントやモーニング・ブリーフィングなどから持った疑問や意見を述べさせてもらいました。

しっかり事前勉強をしたり、各イベントでの疑問点などをメモしておき、時間を有効に使えるとより実りあるものになると思います。また、日本の政策やトレンドを把握しておくことも大事です。

* 厳重な警備の下、写真撮影は一切禁止でした。



国連の建物と各国の国旗

～米日財団昼食会 3/17 昼～

United States-Japan Foundation Roundtable with Japanese College Students On Women's Empowerment

米日財団とは？

1980年にアメリカ法で認可された助成財団であり、日米両国の持続的発展・協力関係構築のために設立されました。日米の学生に対する大学前教育や、教員養成、両国の歴史や文化を理解しあうため2000年から実施されている日米リーダーシップ・プログラムの運営及び支援等、様々なプログラムや活動を行っています。

ラウンドテーブル内容

米日財団の職員の方々を始めとする、両国に関する団体活動や研究、個人活動をされている12名の参加者を前に、8名のインターン生は英語での議論を行いました。（日本国際交流協会の方・三井物産の職員の方・非営利活動法人の方・現地法人の方等）当日は祭日であるSaint Patrick's Dayでもあったため、伝統的な昼食までご用意いただき、非常に朗らかな雰囲気の中でディスカッションは始まりました。



ファシリテーターの職員の方から、両国における喫緊の課題の中でも最も解決必要性のあるもの挙げ、且つそれに対するアプローチ方法を参加者全員がプレゼンテーションするという提案の下、約3時間に渡る熱い議論が交わされました。

一例を挙げれば、日本の女性の社会・政治参加を通じた経済的自立を説き、それに対して米国の参加者の方々や他のインターンメンバーが発言し、様々な現状や政策・意見等についてそれぞれの立場から議論を深めていきました。

米国と日本を繋ぐ重要なネットワーク議論終了後も、1時間程参加者の方々とアメリカ大統領選挙や日本の政治、お互いの活動について熱く語り合う経験は非常に刺激的でした。こちらで得たネットワークは、今後双方の活動発展のため、またさらなる関係構築のために大変貴重なものであると個人的には感じました。



このような素晴らしい機会に参加させていただけののも、BPW インターンならではの経験だと思います。

～BPW JAPAN 内での交流～

夜に予定のない日は、ホテルでいろいろなお話をさせていただきました。

～平松さん・林さん～

2週目にお部屋をオープンルームにして頂いて、様々なお話を聞かせて頂きました。

今まで行った様々な国や地域のお話やお二人の大学時代から現在に至るまでのお話、BPWでの活動や、世界各国の歴史・特徴など、本当にたくさんのお話を聞かせて頂きました。今後のBPWに私たちインターンがどう関わって行けるかなどとても有意義な話ができたと思います。

～名取さん～

仕事をする上で心掛けてこられたことについてのお話をはじめ、結婚相手選びから名取さんのご経歴まで、あらゆる話をお聞きしました。和気藹々とした雰囲気の中で様々な学ぶことができました。私たちのこれから先の将来に重要なスキルや必要になってくる能力を知ることができ、どう行動して行くべきか考えるきっかけとなりました。



～花崎さん～

花崎さんの帰国の前日にお部屋に伺わせていただきました。大学時代から現在に至るまでの活動について、沢山お聞きすることができました。私たちと同じ年頃のときに、何を考えて、何をしたのか、また、女性が学ぶことを否定されていた時代に留学するに至った経緯、経験などをお話下さったので、学ぶことの多い、とても楽しい時間となりました。

他にもインターン同士で空いた時間に今後どのように行動すべきかや、イベントの感想などを話し合いました。自分の意見を口にするのは難しいことですが、お互いの意見を尊重し合って自由にはなせたことはとてもいい機会でした。

事前準備・生活アドバイス

インターン生が2週間生活した中で、
「これはぜひ次のインターン生に伝えたい！」
と強く感じたことを紹介します。

・事前準備

1. 手続き・出発までの流れ
2. 事前勉強

・生活アドバイス

1. お金
2. 宿泊施設
3. 食事
4. 交通
5. 治安
6. 週末の過ごし方
7. 服装・持ち物
8. 体調不良になった場合

事前準備

1. 手続き・出発までの流れ

11月10日にインターンとして選考をしていただき、少しずつ準備が始まりました。今年は、地方在住や留学中のインターン生も多く、事前に全員で集まることが困難だったため、主なやり取りはメーリングリストと Facebook を通して行っていました。以下、簡単なスケジュールを掲載します。

11月中旬：メーリングリスト開設・Facebook グループ作成
26日：第一回事前勉強会（JAWW 主催、@城西国際大学）参加
12月中旬：飛行機の手配、ESTA の登録、保険への加入
予備文書（国連へ入るための通行許可証）作成
NGO Forum 等への登録（コンサルテーションデイ・レセプションも）
1月上旬：滞在先手配完了（できれば年内を目途に）
Grounds Pass Form（国連通行許可証）取得
2月中旬：名刺作成
下旬：サイドイベント・パラレルイベント一覧が公表される
3月8日：第二回事前勉強会（JAWW 主催、@城西国際大学）参加

私たちは、ホテルは Booking.com というサイトから予約しました。予約時のトラブルはありませんでしたしおすすめてです。知り合いの家に泊まる予定の方でも、予定が変わりホテルに泊まらざる得ないこともあります。キャンセル料は1週間前まで無料なものもあるので、ぜひホテルも保険として取っておいてください。

2. 事前勉強

昨年インターン生のサポートにより、事前勉強の資料をたくさん得ることができました。この報告書では著作権の関係で紹介できませんが、A) 知っておくべきキーワード、見るとよいサイト B) おすすめの本を紹介します。

A). 知っておくべきキーワード、見るとよいサイト

ジェンダーに興味がある私たちでも、なかなか馴染みのない言葉がイベント中は飛び交っています。さらっと知っておくだけでもイベントの理解が深まるのでぜひ調べておきましょう。また、国連の組織、歴史、ジェンダーについてはどんなことをしているかについて調べておくとよいです。

【キーワード】

MDGs SDGs 内閣府男女共同参画局 女子差別撤廃条約

【サイト】

* UN WOMEN

<http://www.unwomen.org/en>

(参考として CSW60 <http://www.unwomen.org/en/csw/csw60-2016>)

* NGO CSW NY

<http://www.ngocsw.org/>

* 外務省 HP

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/women/>

* 内閣府 HP

http://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_csw/

* 内閣府－女子差別撤廃条約

http://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_teppai/

* UN－CEDAW

<http://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CEDAW/Pages/CEDAWIndex.aspx>

* NWEC

<http://www.nwec.jp/>

B). おすすめの本 (インターン二人による紹介です！)

・中見利夫著 『国連のナゾ Q&A』(NHK 出版)

—事前に軽く頭に入れ、CSW の雰囲気をつかんだ後に再読すると体系的理解が深まる。

・平木典子著 『アサーション入門—自分も相手も大切に自己表現法—』

—コミュニケーションが不安な方は、参加前に一読しておくとな役に立つかも。

生活アドバイス

1. お金

持参する金額に悩みましたが、実際に使った金額は、約 30 万ほどでした。

クレジットカードは必須で、キャッシュパスポート(クレジット機能のみならず、海外の ATM で利用できる)と合わせて 2 枚持っておくと便利だと思います。

2. 宿泊施設

私たち 8 人は、YMCA Vanderbilt に 4 人、Hotel Boutique at Grand Central に 1 人、Airbnb (空き部屋を宿泊として貸し出すサービス) に 3 人宿泊していました。以下 YMCA と Airbnb の特徴です。

【YMCA】安い値段に加え、とても便利なホテルでした。国連からも徒歩 5 分、ツインの場合はカードを二枚くれる、キッチン・コインランドリー付きは「生活する」のにととても助かりました。しかし、我慢しなければならないこととして、シャワーは 1 フロアに 3 つトイレは 2 つで共同、ツインの部屋は 2 段ベッドで柵が無く、布団がただの布、部屋の広さは 2 畳あるかないか、があります。(暖房もありましたが、夜中になると切れていました。なぜ…?) YMCA には世界中の NGO の方やアメリカの高校生が泊まっており、楽しい交流をすることができました。



【Airbnb】今回は 3 人が Airbnb を利用してルームシェアを行いました。費用は 2 週間で 1 人約 76000 円でした。部屋はキッチン、ユニットバス、の他にベッドになるタイプのソファがある部屋と寝室の 2 部屋を共有して過ごしました。なによりも良かったのは、いつでもメンバーで話せることでした。出かけるまでの時間や寝る前に、参加したイベントのことや、お互いの考えや将来について熱く語り合うことができました。

3. 食事

ニューヨークにはコンビニの代わりに、「デリ」と呼ばれるお店が至る所にあります。デリとは、デパ地下に売られているようなおいしい食品をまとめて量り売りしており、オリジナルの弁当を作れるお店です。価格はデパ地下の食品とだいたい同じで、\$ 15 あれば十分バランスのいい食事をすることができます。朝食としても利用していました。

4. 交通

ニューヨーク・マンハッタンは、迷子になりにくい街です。まず道路が、京都のように碁盤の目になっており、通りにはそれぞれ東西、南北順に数字がふってあります。また、地下鉄の駅名も、～ストリート駅となっており、非常にわかりやすいです。地下鉄を利用する際私たちは、フリーパスを利用していました。地下鉄の治安は、夜中を避ければ、夕方から複数で、日中なら一人でも利用でできるほど改善されています。

5. 治安

治安は日本よりも少し悪いくらい。日中一人で歩くくらいなら問題ありません。ただ、乗らないか？と黒い大きな車の人が声をかけてきても乗らない、目抜き通りではひったくりに注意が必要です。

6. 週末の過ごし方

週末は基本行先を伝えておけば、自由に行動することができました。興味のあるメンバー同士で、ブロードウェイ、美術館、自由の女神、ハイウェイなどの観光スポットを巡ったり、バスでナイトツアーに参加したりしました。

7. 服装・持ち物

服装は、暑さよりも寒さに対応できるもの、重ね着できるものがいいと思います。気温変化が大きいので、天気予報を参考にしつつ、手袋・カイロ等も持っておくと良いです。また、持ち物としてポケット Wi-Fi がおすすめです。国連内部やホテルでは自由に無料 Wi-Fi を利用できますが、カフェや空港では時間制限があり、メンバーとの連絡や、道順検索などで困ることもありました。レンタル料が高いため、インターン生同士でシェアして借りると良いかもしれません。

8. 体調不良になった場合

初日の夜に熱が 39 度近く出たため、Anshin Medical Health Care という、HIS 保険のサポートブックに掲載されている病院へ行きました(インフルエンザでした)。

ここは現地在住または観光で来た日本人向けの病院で、日本語で対応して下さいます。

保険に入っていたため、病院ではキャッシュレスでしたが、薬代として 7 万 5 千円程その場で支払わなければなりません(保険会社からの返金は帰国後に要申請)。万一に備えて、クレジットの上限額等を予め確認しておくことをおすすめします！(H. A)

2017年 UN-CSW61 派遣インターン募集要項

募集目的 国際問題・国連問題・女性問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。2017年女性の地位委員会の優先テーマは「Women's economic empowerment in the changing world of work (仮訳：仕事の変化する世界における女性の経済的エンパワーメント)」です。

期 間 2017年第61回国連女性の地位委員会は、3月13日(月)から24日(金)の日程で開催されます。登録・事前のイベント、BPW インターンの顔合わせなどの都合で、開始前の前々日(11日)に到着するのが好ましく、滞在は10日以上を期待します。

6つの特典

- CSW の会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べるができます。(一部有料)
- BPW インターナショナル主催の各種活動(ワークショップ、交流会、夕食会など)に参加して、各国のBPWIメンバーと交流ができます(BPWIとの交流の有料部分はBPW一部負担)。
- 国連やCSWに関する説明や解説を事前あるいは現地ですることができます。
- 日本政府代表部がおこなう公式説明会に参加できます。
- 世界各国の女性団体の方と交流できます。
- 国際関係・女性問題関係を専攻する女子学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ20歳以上の、大学生または30歳以下の女性、若干名。NYでは、現地ブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただきます。帰国後、報告書を日本BPW連合会に提出していただきます。また、ヤングBPWのメンバーとしてBPWの活動に参加していただきます。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが必ずご加入ください。また、NGOブリーフィングや食事会の登録料は各自負担になります。但し、BPWが行うイベント(夕食会他)への参加費の一部はBPWが負担します。

応募方法 E-mailにて、応募必要事項記載の上、小論文(応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英語で述べて下さい。「日本語で1000字前後、英語で500words以内」を添付の上送信。

応募メールへの必須情報(応募メール本文または、添付ファイルに記載願います)

氏名 / (ふりがな) 生年月日 19 年 月

日生

住所 〒

連絡先 電話 / メールアドレス

所 属/大学(学部・専攻)又は職業

履 歴 高校卒業以後の履歴(学歴・職歴等)

滞在可能期間(予定)

備 考 応募にあたって、疑問点などあれば、お書き下さい。

**応募及び
問い合わせ** csw2017@bpw-japan.jp(日本BPW連合会インターン担当)
件名に「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2016年10月10日(月)

結果発表 2016年11月10日(木)

その他 選考にあたり、電話インタビューまたは面談などを行う場合があります
募集要領・メールフォームは、下記にも掲載します
<http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>



特定非営利活動法人日本 **BPW** 連合会
2016.5.25 発行 (頒布価格 1,000 円)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303
TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876
E-mail office@bpw-japan.jp URL <http://www.bpw-japan.jp/>